

# 国語科学習指導案

日 時 令和2年5月29日（金）公開授業Ⅱ  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
3年A組33名  
会 場 3A教室  
授業者 鈴木 駿

## 1 単元名

今に生きる論語

## 2 単元について

### (1) 学習者観

昨年度には漢詩の学習を行い、限られた字数の中で情景や作者自身の心情を表現したり、多くの工夫を交えながら豊かに詠い上げたりしながら自分自身の思いを伝える力や漢文独特の表現について学んでいる。実践を行う前の「漢詩や漢文に対してどのようなイメージを持っているか」という問いに対して「内容的な理解が難しい」、「漢字のみの文では親しみが持ちづらい」などの否定的な意見が学年の97%を占めていたが、実践を行った後の同様のアンケートでは、「漢字のみの文章なのに情景が鮮明に浮かんでくる」「限られた字数の中で作者の工夫が多くみられることに驚いた」など、漢詩に対して肯定的に捉える生徒が97%に増加した。漢詩のもつ面白さや価値に気づき、主体的に鑑賞を行おうと学習に取り組んだ生徒が多く見られ、前向きに漢文の学習に取り組む素地ができています。また、生徒は総合的な学習の時間において「新しい社会」とはどのような社会なのかを探る学習に取り組んでいる。「Society5.0」や「AI」、「Iot」についてなど、様々な要素が複雑に絡み合っている今後を捉えるために、思考ツールを用いて思考の構造化を図る学習を行っている。

### (2) 学習材観

中心学習材：『論語』（東京書籍 「新しい国語」3年）

補助学習材：『論語』（金谷治 訳注）（岩波文庫）

時代や状況によっても変わることのない人間の生き方に関する含蓄ある孔子の考えが収められているのが『論語』である。孔子の人間の生き方に対する鋭い観察や深い思索にふれ、現代の自分たちの生活と比べることによって、その言葉を実感としてとらえることができるであろう。今現在の世界の状況を鑑みても、混乱の中にあって孔子の言葉によって私たちが忘れてはならない物事の本質が見えてくる。これからそれぞれの道を歩みだしていく学習者にとって、今後の人生において折に触れて立ち返る言葉となることを期待して扱っていく。

また、『論語』は様々な出版社によって訳がつけられ発刊されていたり、多くの研究者や読み手によって解釈されていたりするが、その解釈は多岐にわたり、一つの正しい解釈があるわけではない。加えて内容が抽象的かつ孔子の言わんとすることを言い切っていないために、理解が難しい側面もある。今回は思考ツールを用いながら『論語』の内容の理解を深め、親しみを持たせるようにしていく。

### (3) 教科研究との関わり

#### ① 言葉による見方・考え方を働かせる「真正の学びの場」の設定

『論語』は先にも述べた通り、多様な解釈が可能な書物である。それは多くの概念が複雑に絡み合っていること、さらには読み手の感性やこれまでの人生経験によって捉え方が変わってくるのが原因だと考えられる。今回の単元では複数のテキストを読むことで孔子の思想に迫り、自分なりに社会や人間についての在り方について考えを持つことを目的に展開していく。抽象的な内容が多い作品のため、その内容理解だけでは表面的な解釈にとどまる可能性がある。思考ツールを用いることで概念どうしを構造化し、思考を整理して内容の理解を促すとともに、その具体的な姿を学習者に想像させながら『論語』の世界に親しむ態度を養い、より身近に『論語』を感じさせていく。

また、古典は過去より受け継がれてきたものであり、また、未来へ継承していかなければならない人間の文化的な財産である。『論語』が現代社会においても愛されてきたのはなぜなのかについても考えさせ、古典を継承していく態度も養っていききたい。

#### ② 国語科における学びの自覚化

これまでの1時間単位の振り返りは、授業の終末に行うことが多かった。しかし、自分の考えの変容につ

いてうまくまとめることができないなどの課題が見られた。そこで、授業の終末に振り返りを行うことにこだわらず、学習内容や指導目標に照らし合わせながら、適切な機会を設けて振り返りを行いたい。今回の単元でははじめの問いから自然発生的に生まれる新たな問いを設けることを意識して1時間単位当たりの授業づくりを行っている。その思考の過程における学習者の学びの変容や深まりがみられるように、言葉による見方や考え方をどう働かせたのかを振り返らせたい。その際、誰のどんな発言によって自分の考えを構築したのかについて気付かせたい。そして、終末では指導者が提示した新たな視点や手立てによって変容した自分の考えを書かせることを心掛けたい。

### ③ 情報・情報技術の効果的な活用

『論語』はこれまで多くの人に愛され、また、人生のバイブルとして大切にされてきた中国の古典であるが、その一方で内容の難解さであったり、同じ物事についても異なった表現で語られることもあったりするなど、中学生が完全に理解することが難しいものも見られる。そこで今回の単元では思考ツールを用いて内容を図化しながら、孔子の伝えたいことは何だろうかということについて迫りたい。ただし、内容的に思考ツールを使って内容の理解の深化が図られないであろう題材もあることには注意しながら、学習者には学習材を提示していきたい。

## 3 単元の目標

### 【知識及び技能】

- ・ 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めることができる。((2)ア)
- ・ 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しむことができる。((3)ア)

### 【思考力・判断力・表現力等】

- ・ 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持つことができる。(C(1)エ)

### 【学びに向かう力、人間性等】

- ・ 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通して自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。

## 4 単元計画

### (1) 本単元における言語活動

論語を思考ツールを用いて分かりやすく図化し、『論語』における孔子の考えについて自分なりの考えを持ち、現代社会に対する意見をもつ。

(関連：【思考力・判断力・表現力等】(C(1)エ))

### (2) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 具体と抽象など情報と情報との関係について理解を深めている。((2)ア) ② 歴史的背景などに注意して古典を読むことを通して、その世界に親しんでいる。((3)ア)	① 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持っている。(C(1)エ)	① 粘り強く漢文に表れているものの見方や考え方、表現の工夫を考え、説明しようとしている。

### (3) 指導と評価の計画

次	時	学習活動	評価の観点			【評価方法】
			知技	理解	態度	
一	1	(1) 単元の見通しをもつ。 (2) 諸子百家の思想を比較し、法家思想と儒家思想の違いをとらえ、孔子の立場を明確にする。 (3) 『論語』における最高の概念である「仁」とは具体的にどのような姿なのか、考える。	②			(学習課題)「仁」とは何だろうか」について、諸子百家への理解を基に自分の考えを持っている。 【OPPシート】
二	2	(1) 『論語』の文章を読み、「仁」と「孝	②			(学習課題)「孝悌」や「忠」と

		悌」「克己」「忠」「信」「恕」の関わりについて考える。				はどのようなものだろう。」について、自分の考えを持ちながら『論語』を読んでいる。 【学習シート】
三	3	(1) 「仁」「孝悌」「克己」「忠」「信」「恕」の関係性について、思考ツールを用いてまとめる。	①			(学習課題)「どのように「仁」や「孝悌」は関係しあっているのだろうか。」について、思考ツールを用いて自分の考えをまとめている。 【学習シート】
	4 (本時)	(1) グループで前時にまとめたものを交流する。 (2) 『論語』における「仁」とは何かについて自分の考えをもつ。		①	①	(学習課題)「仁」とはどのようなものなのだろうか。」について、思考ツールを用いて論理的に交流し、自分の考えをもつことができる。 【学習シート】
	5	(1) 『論語』の内容を踏まえながら、現代社会に通ずる孔子の考えについてまとめる。 (2) 単元の振り返りを行う。		①	①	(学習課題)「『論語』の言葉は現代にどのように生きているだろう」について、具体例を挙げながら自分の意見を持つことができる。 【学習シート】

#### 4 本時について

##### (1) 指導目標

『論語』における孔子の考えについて交流を行い、自分の考えを広げたり深めたりしながら、現代社会に対する意見をもつ。

##### (2) 評価規準

###### 【思考・判断・表現】

- ① 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会、自然などについて、自分の意見を持っている。(C (1) エ)

###### 【主体的に学習に取り組む態度】

- ② 漢文に表れているものの見方や考え方、表現の工夫を考え、説明しようとしている。

##### (3) 授業の構想

ここまで、学習者は『論語』が書かれた時代の中国の社会背景や孔子の生き方などを学ぶとともに、『論語』を読み、孔子の考えを思考ツールを用いながらまとめていく学習活動を行ってきた。本時は孔子が最も重要視してきた「仁」とは何なのかに迫っていく時間である。

導入では、学習課題の確認を行うとともに、前時に個人で取り組んだ内容を振り返り、その内容をもとにグループでの学習を進めていくことを確認する。さらに、思考ツールを用いる際に気を付けたことは何かを共有し、グループワークのときに気を付けたいポイントを確認する。

展開の前半では、個人でまとめた「仁」についての図を用いながらをグループで交流し、「仁」とはどのようなものか、考えを深めていく。話し合いの中で、「仁」とは何なのかを相手の話を聞きながら自分と比較し、質問したり意見を述べあったりすることで考えを広げたり深めさせたりしていく。学習者は今までの学習過程の中で「仁」にまつわる基本的な考え方「孝悌」「克己」「信」「忠」「恕」の五つがどのように関連しあっているのかを考えながら内容の理解に努めてきた。その理解をベースにしなが、難解な概念どうしを関連付けたり、順位づけたりすることで理解が図りやすいことにも気付かせていく。

展開の後半ではグループでの交流を受けて自分の考え方の変化に関わって振り返りを行わせ、学びの自覚化を図りながら、孔子の考えについての意見を持たせたい。

終結では、これまでに捉えた「仁」の考えに沿って具体的な姿を想像させる。抽象的な概念を具体的に表すことで、より明確に孔子の思想を実感させるとともに、「なぜ論語が今の社会にも読まれ、受け継がれているのか」を考えていく次時に向けての素地としたい。

